

最近の鉄道国際規格審議状況

(Recent situation of developments
on railway international standards)

【概要】

鉄道国際規格センターでは、国際規格に日本の技術仕様・設計思想を盛り込み、日本並びに世界の鉄道の発展に寄与することを目的に、国際規格審議活動を行っています。

【日本がリーダーシップを発揮する国際規格審議】

現在多くの鉄道国際規格の審議が行われておりますが(裏面参照)、下記に代表されるように、日本の技術が優れている分野では、日本がリーダーシップを発揮し、審議が進められています。

▶列車制御用無線性能要求決定手順 (IEC/TS 62773)

日本国内における無線利用の列車制御システムのJS規格を国際規格化するという方針のもと、日本からIEC/TC9に提案しました。

海外で導入が進んでいるETCSやCBTCなどを包括する内容として審議が進められました。2014年4月にIEC/TS 62773として発行されました。

▶電力貯蔵システム (車上:IEC 62864-1、地上:IEC 62924)

鉄道国際規格センターの会員で構成する車両電機部門連絡会から、ハイブリッドシステムは省エネルギーに寄与する日本の優位技術であるとして提案され、国内での検討を経て、車上電力貯蔵システムとして日本からIEC/TC9に提案しました。

車上電力貯蔵システムに続き、地上電力貯蔵システムも日本が優位性を発揮できる分野であることから、日本からIEC/TC9に提案しました。

この2件は、日本をリーダーとして国際規格審議が進められています。

▶リチウムイオン電池 (IEC 62928)

車上電力貯蔵システムの提案に際し、車両の主回路用蓄電池規格の必要性が認識され規格提案がされました。多くの技術的知見を有する日本が国際規格審議のリーダーとして指名され、審議が進められています。

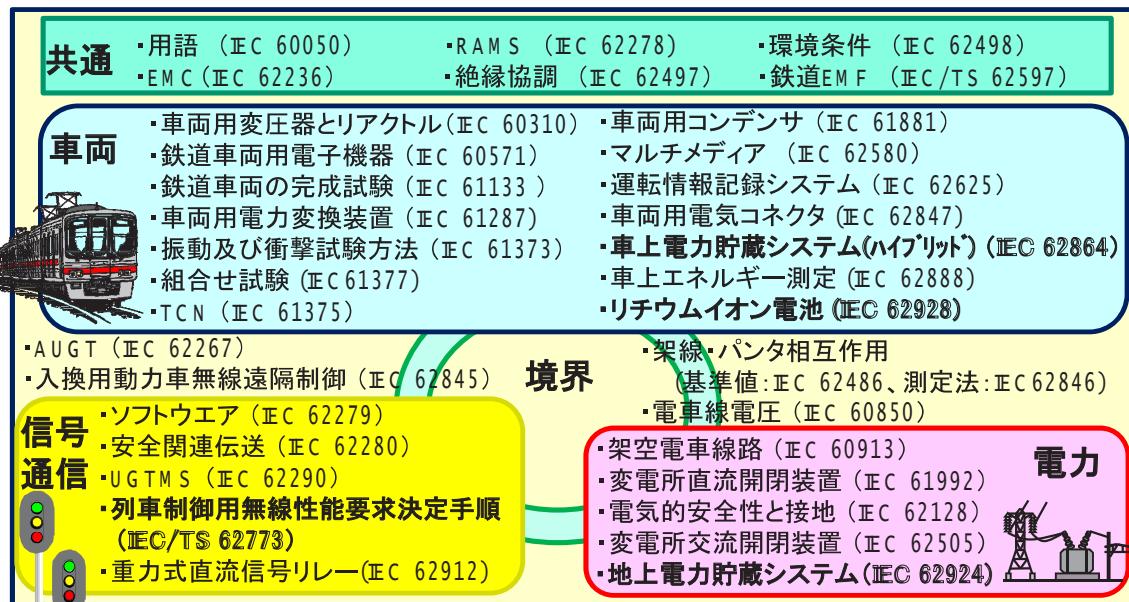
▶鉄道プロジェクト規格 (ISO/TC269/AHG02)

鉄道システム調達者のニーズや条件を特定し、調達者と供給者が共に鉄道プロジェクトを円滑に進めることを目指して日本から提案しました。製品規格とは異なり、鉄道プロジェクトの計画段階に関わる要素やプロセスを包括する規格(第1段階としてTR)の開発が進められています。

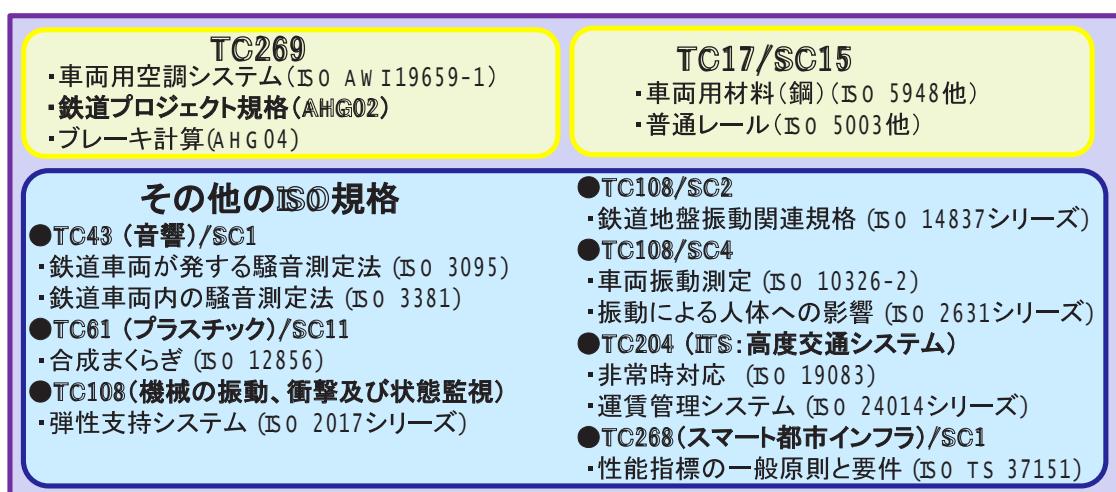
▶O&S(Operation & Services)SC設置提案 (ISO/TC269/AHG05)

日本が得意とするオペレーションやサービスの分野の規格を専門的に審議する体制を作るために、O&S SC(分科委員会)の設置を提案するとともに、この分野の規格審議に関して、日本がリーダーシップを発揮することを目指しています。現在、AHG05において、ISO/TC269内に3分野のSC(インフラ、車両、O&S)を設置するための検討が進められています。

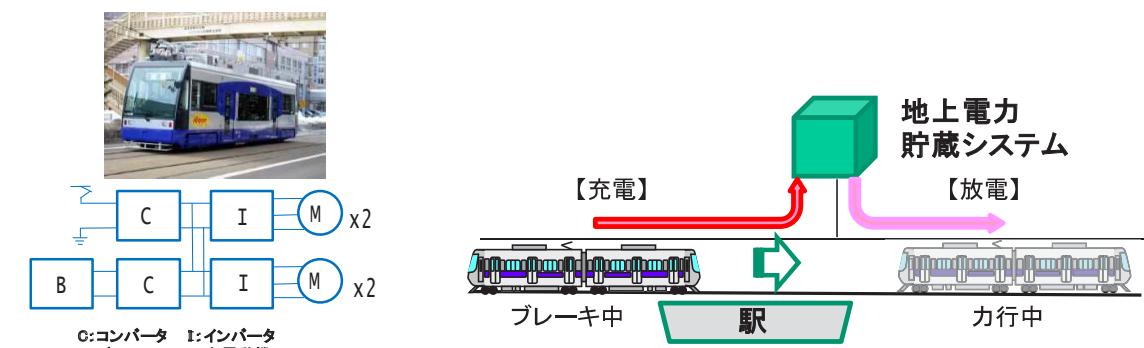
(注)AHG:アドホックグループ、TR:技術報告書、TS:技術仕様書



【主なIEC/TC9 発行・審議中の規格】



【主なISO発行・審議中の規格】



【車上電力貯蔵システム】 【地上電力貯蔵システム】



公益財団法人鉄道総合技術研究所
鉄道国際規格センター <http://risc.rtrid.or.jp/>